茨城県西部医療機構広報紙 第14号 2024年3月発行

にじいろ

地方独立行政法人 茨城県西部医療機構
茨城県西部メディカルセンター
Ibaraki Western Medical Center

病院理念 地域の中核病院として患者中心の良質な医療を提供します。

石川県珠洲市に向かうDMAT（七尾市周辺）

2ページ DMAT活動報告

4ページ 院内クローズアップ「健診・予防センター」

6ページ 疾病コラム 消化器内視鏡

7ページ 院内の魅力発見「MRIの魅力」

8ページ 病院で働く資格 有資格者インタビュー 看護師・管理栄養士

10ページ わたしの推し

DMAT
活動報告

能登半島地震被災地へ DMAT（災害派遣医療チーム）を派遣しました

この度の能登半島地震において被災された方には、心よりお見舞い申し上げます。

また、被災者の救済と被災地の復興支援のためにご尽力されている方々に深く敬意を表します。

災害拠点病院である当院においても、厚生労働省DMAT事務局からの派遣要請を受け、石川県に向けDMATとDMATロジスティックチーム隊員を派遣しました。

今回の派遣では第１陣として、中山医師を隊長に酒井（看護師）、杉山（看護師）、佐久間（業務調整員）、猪瀬（業務調整員）の計５名の隊員が出動し、石川県珠洲市の珠洲市総合病院にて医療支援活動を行いました。

第２陣では、山下医師がDMATロジスティックチーム隊員として珠洲市健康増進センターの珠洲市保健医療福祉調整本部にて各支援部隊の調整業務を行いました。

今後も引き続き必要な支援を提供できるよう、体制を整えてまいります。

▲出発前のDMAT隊員

DMAT隊長　医師　中山　健

今回の派遣では、珠洲市総合病院で病院支援を行いました。

医師、看護師は夜間の救急業務を行い、業務調整員は病院内の災害対策本部で医療搬送を中心とした本部業務を支援しました。DMATなどの支援は徐々に縮小しつつ現地の医療スタッフだけで病院の機能を維持・回復していく移行期に入りつつあり、前を向いて診療にあたられている現地スタッフの姿に心を打たれました。

DMATロジスティックチーム隊員　医師　山下　圭輔

珠洲市保健医療福祉調整本部にて、各支援部隊の調整業務に従事しました。現地では、DMATだけではなくJMAT、日本赤十字社などの多くの医療福祉チームや地元行政、保健所、医師会などが支援業務にあたっています。被災地域全体の支援のニーズを把握し、必要な支援が行き届くよう各支援部隊間の細かな調整が必要とされていました。

▲調整本部のミーティングの様子

DMAT（Disaster Medical Assistance Team）とは?

DMATとは、医師、看護師、業務調整員（医師・看護師以外の医療職及び事務職員）で構成されたチームであり、大地震及び航空機・列車事故等の災害時や、新興感染症等のまん延時に、地域において必要な医療提供体制を支援し、傷病者の生命を守るため、厚生労働省の認めた専門的な研修・訓練を受けた災害派遣医療チームです。

DMATロジスティックチーム隊員とは?

DMATロジスティックチーム隊員とは、厚生労働省等が実施する「DMATロジスティックチーム隊員養成研修」を修了し、厚生労働省に登録された者であり、災害時にDMATロジスティックチームとして主に病院支援や情報収集等のロジスティクス（調整業務）を専門とした活動を行います。

活動概要

1月15日（月）

厚生労働省DMAT事務局からの派遣要請を受けてDMAT派遣を決定

隊員5名（医師、看護師、業務調整員）を選出

1月24日（水）

7時、当院のDMATが石川県の被災地に向けて出発

1月25日（木）

10時、石川県珠洲市に到着

珠洲市総合病院にて、救急外来業務支援、搬送調整業務支援を実施

1月26日（金）

救急外来業務支援、次期支援部隊への業務引継ぎを実施

富山県高岡市へ移動

1月27日（土）

8時、高岡市を出発

17時、茨城県西部メディカルセンター帰院

2月8日（木）

14時、当院のDMATロジスティックチーム隊員が石川県の被災地へ向けて出発

2月9日（金）

11時、石川県珠洲市に到着

珠洲市健康増進センターの珠洲市保健医療福祉調整本部にて各支援部隊の調整業務に従事

2月10日（土）～2月11日（日）

各支援部隊の調整・補完業務、各避難所の実地調査を実施

2月12日（月）

次期支援隊員に業務引き継ぎを実施

13時、珠洲市を出発

22時30分、筑西市到着

◀出発に際し、職員からの激励を受けるDMAT

DMATカーと救急車に乗り込むDMAT隊員▶

◀珠洲市に向うDMAT（能登市周辺）

▲珠洲市総合病院にて看護師から申し送りを受けるDMAT隊員

▲珠洲市総合病院調整本部の様子

富山湾越しの立山連峰▶

調整本部内に設置された循環型手洗いスタンド▼

▲自治体から派遣されたトイレカー

院内クローズアップ　健診・予防センター

病院長補佐兼健診・予防センター長　田邉　義博
健診・予防センター　業務課　課長　福原　圭介

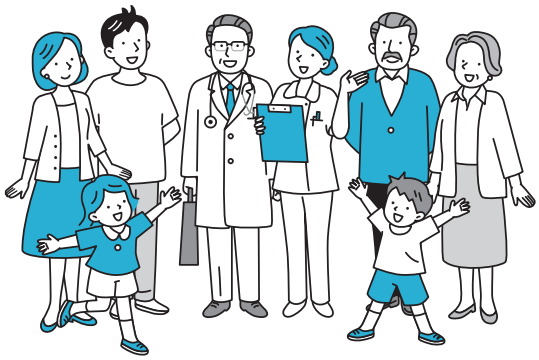
2025年度に新健診センターがオープンいたします

現在、当院の健診・予防センターはプラザ棟内で1日15人程度のご利用をいただいておりますが、病院の西側に別棟を新築して1日60人程度がご利用できるようになります。現在設計が終了して建築に入る予定です。これは茨城県西部医療機構の第２期中期計画に位置付けられている「健康増進、疾病の予防医療活動」を達成目標とする事業の一つです。病院へご来院される方々にはしばらくご迷惑をおかけすることもあるかと思いますがよろしくお願いいたします。

1　健診・予防センターの使命

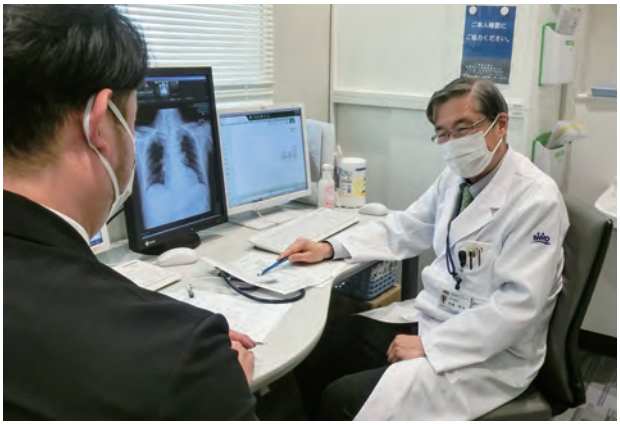
当院の健診・予防センターは地域に密着するとともに、病院と協働して皆様の健康管理を行っています。地域との連携を通してお一人おひとりの健康づくりを支援してまいります。

また、当院には筑波大学ヘルスサービス開発研究センター地域予防医学部門　筑西研究室が設置され予防医学の発展に貢献しています。



2　予防医学と健診（人間ドック）の重要性

自分の健康リスクをよく知ることや、病気を早期に発見することは、個人だけでなく社会全体にとっても極めて重要です。特に40歳以上は生活習慣病やがんなどのリスクが高まる傾向があり人間ドックを毎年受けることが推奨されています。喫煙、過度のアルコール摂取、不健康な食生活などの要因によってはリスクが30歳代から顕れることもあります。30歳代でも定期的な健康診断に加えて人間ドックを検討することは重要です。健康を維持して健康寿命をのばすにはこれらのリスクを把握して的確な対応をすることが大切です。日本人の死因の大半を占めるがんと動脈硬化疾患を早く見つけて対応することが健診の大きな役割です。



結果説明の様子

3　新健診センターの特徴

当施設は、胃がんが日本での死因の一部を占め、その原因であるピロリ菌感染が特にこの地域で多発していて若年層にも広がっている現状を踏まえて有意義な健康診断の一環として胃内視鏡検査を提供しています。ピロリ菌を除菌治療した人も未感染者に比べて10倍以上の胃がんになるリスクがあり定期的な胃内視鏡検査が必要です。

しかし、この地域で胃内視鏡検査を受けられる健診施設数は限られていて地域外で検査を受けていた方も多い現状です。新健診センターでは内視鏡検査室を3室準備して希望者全員が内視鏡検査ができる体制を準備します。また胃内視鏡はすべて苦痛の少ない経鼻用細径型を用意いたします。もちろん口からの検査も可能で快適に検査が行えます。

また、人間ドックご利用の方は医師の面談で当日に結果説明をいたします。これにより、検査結果を待つ間の不安を軽減でき、気になる点があればすぐに医師に相談することができます。さらに詳しい検査をすすめられて当院の外来受診をご希望される方はスムースに予約が取れるようにします。

さらに保健師による生活指導、管理栄養士による栄養指導のほか多くのオプションを充実させていく予定です。是非ご利用ください。

ABI検査の様子

4　オプションの選び方

① 自分のリスクが高い項目から優先的に検査することをお勧めします。疾患には遺伝性や家族性のあるものが多いからです。親や兄弟が病気になった場合、その病気の検査をすることはとても大切です。

② この地域では胃がんの原因であるピロリ菌感染が多いので是非1回検査しておくことをお勧めします。特に家族にピロリ菌感染、胃癌の方がいるかたや井戸水利用していた方は要注意です。

③ 動脈硬化疾患の発症リスクは性別、血圧、糖代謝異常（糖尿病予備軍）、LDLコレステロール、HDLコレステロール、喫煙の有無でわかります。心配な方は血管の硬さがわかる検査（ABI・PWV）や動脈硬化の程度がわかる頸動脈エコー検査などがお勧めです。

④「どこが痛い」などの症状があるから、人間ドック（オプション検査）で調べたいという方がいらっしゃいますが、実際にはこれは間違った選択です。人間ドックは症状がない段階での検査に適しています。痛みなどの症状を感じている場合は、専門の外来を受診することをお勧めします。

健診・予防センターのスタッフ

疾病コラム

消化器内視鏡

内科（消化器内科）　平岡　友二

2021年春、コロナ禍の中で赴任して、今年で4年目になる消化器内科の平岡友二です。今回は担当する消化器内科業務の内、当院での内視鏡業務を中心にご案内させていただきます。消化器内科の対象疾患の多くが、診断、治療のために内視鏡検査が必要となります。

上下部消化管出血では消化器内視鏡検査は出血源の同定や止血に有用であり、閉塞性黄疸では一刻も早い内視鏡的胆管ドレナージが患者の予後を大きく左右することも稀ではありません。内視鏡の発展とともに早期の診断や低侵襲の治療が可能となってきており、近年では内視鏡の重要性が益々認識されています。

消化器内科の対象疾患

（下線の疾患が、診断、治療のために内視鏡が適応となる疾患）

食道アカラシア、逆流性食道炎、Mallory-Weiss症候群、胃・食道静脈瘤、急性胃粘膜病変、慢性胃炎、ヘリコバクター・ピロリ感染症、機能性ディスペプシア、胃ポリープ、胃・十二指腸潰瘍、食道癌、胃癌、胃毛細血管拡張症、腸閉塞、炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）、大腸ポリープ、大腸癌、結腸憩室炎、結腸憩室出血、虚血性腸炎、偽膜性腸炎、直腸宿便潰瘍、ウイルス性肝炎（急性、慢性）、肝硬変、肝癌、自己免疫性肝炎、原発性胆汁性胆管炎、急性・慢性胆嚢炎、胆石症、閉塞性黄疸、総胆管結石、急性胆管炎、胆嚢・胆管癌、十二指腸乳頭部癌、膵癌、急性・慢性膵炎、自己免疫性膵炎、嚢胞性膵疾患、等。

当院での消化器内視鏡検査

当院での内視鏡検査実績（2022年度）：上部 1,875件、下部 747件、ERCP 57件。
うち、緊急検査（2022年度）：上部 134件、下部 48件、ERCP 45件。

常勤医師4名、非常勤医師４名で、月曜から金曜までの予定検査に加え、随時、緊急対応をしています。

○上部消化管内視鏡検査（EGD：EsophagoGastroDuodenoscopy）

人間ドックなどのスクリーニング検査では、負担の少ない細径内視鏡による経鼻内視鏡が過半数を占めています。その他、各種止血術（食道静脈瘤破裂、出血性胃・十二指腸潰瘍、胃毛細血管拡張症（GAVE）、出血性胃ポリープ）、胃ポリープ切除術、EVL（内視鏡的食道静脈瘤結紮術）、EMR（内視鏡的粘膜切除術）、等を行っています。

○下部消化管内視鏡検査（CS：ColonoScopy）

スクリーニング検査、各種止血術（憩室出血、直腸潰瘍、等）、大腸ポリープ切除術（CSP、EMR）、等を行っています。

○内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査

（ERCP：Endoscopic Retrograde CholangioPancreatography）

総胆管結石採石術、胆管ドレナージ術（十二指腸乳頭切開術、胆管ステント（プラスチック、メタリック）留置術、ENBDチューブ留置術、胆膵悪性腫瘍診断のための生検、細胞診検体採取等）、等を行っています。

地域の中核病院としての責務を果たすべく、平日日中は随時、夜間・休日も可能な範囲で緊急内視鏡について積極的に対応していますので、今後とも何卒よろしくお願いいたします。

内視鏡メンバー

内視鏡室

院内の魅力発見!!

MRIの魅力

診療放射線技師　斎藤　涼太朗

放射線技術科が携わる検査は様々ありますが、今回はMRIの魅力についてご紹介します。

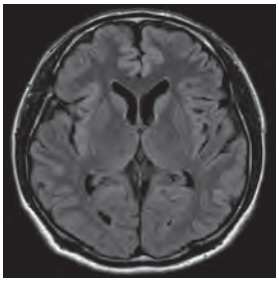
MRIは強力な磁石でできた装置の中で、その磁力と電磁波を使って体の内部を画像化する検査です。放射線を使わずに全身の組織や内臓を画像化することができるので、被ばくが気になる方でも安心して検査を受けていただけます。

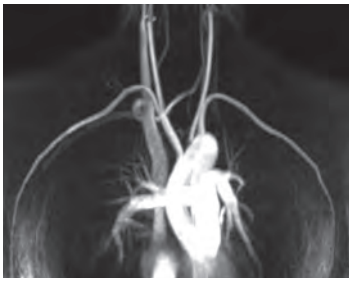
検査部位によっては撮影中に映像をご視聴いただく事で圧迫感の軽減を図ります

迅速な診療に貢献するために、予約外の飛び入り検査にも柔軟に対応しております。
※実施可能な検査数には限りがあります。

当院は磁気共鳴専門技術者（MRI認定技師）2名を擁しております（2023年度時点）。診療放射線技師の3%弱しか保有していない難易度の高い資格です。質の高い検査を行うことは勿論、イレギュラーな事態にも対応しております。

患者さんの体の動きや体内金属による画像の乱れに対して、専門的な知識を活かしています。





不安な点やご質問がある際は、お気軽に担当技師にご相談ください。

病院で働く資格
有資格者インタビュー

病院ではいろいろな資格を持った職員が働いています。資格を持った職員にインタビューしました。資格取得の流れも掲載します。

看 護 師 （国家資格）

インタビュー
田中　麻由さん
聴き手
大﨑　喜久代さん

大﨑：よろしくお願いします。まず、看護師になった経緯をお伺いします。

田中：よろしくお願いします。元々は違う仕事をしていたのですが、妊娠・出産で病院に関わる機会があり、看護師さんや助産師さんにお世話になったのがきっかけです。

大﨑：育児をしながらのレポートや実習など、看護学校での勉強は大変ではありませんでしたか？

田中：子どもの保育園の送り迎え等、自分でやらなければならない事との調整が大変でした。ほかにもテスト勉強等も大変でしたが、同じ環境の仲間と励ましあったり、友人や家族にサポートしてもらうことで乗り越えられました。

大﨑：看護学校の入試はどうでしたか？

田中：社会人枠なので、一般的な作文や面接が主でした。

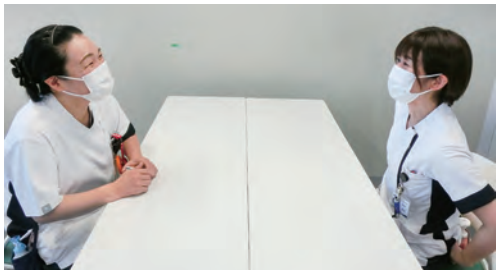
大﨑：他業種からの転職を検討する方もいると思い、聞かせてもらいました。
さて、もうすぐ２年目が終わりますが、落ち着いて患者さんに丁寧に優しく接しながら安全にお仕事を進めているという印象があります。自分で何か実感していることはありますか？

田中：スケジュールを組み立てられるようになり、患者さんの疾患等に配慮しながら接する余裕ができたと思います。患者さんが「ありがとう」と言ってくれることがやりがいに感じます。

大﨑：目指す自分の姿や看護師像はありますか。

田中：これからも知識や経験をたくさん吸収して、自信を持って看護ができるようになり、同僚や後輩に教えられるようになりたいと思っています。

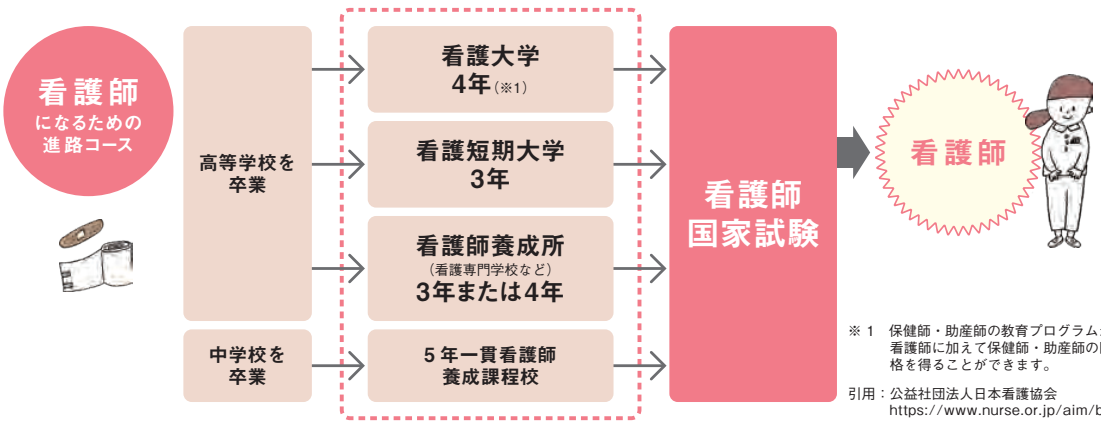
大﨑：指導の面でも頑張りたいということですね。
ストレスも多い職種だと思いますが、自分なりのストレス解消法はありますか。



田中：家に帰れば子供が待っているので、会話することでリセットされる感じです。体力的に疲れる仕事ですが、お休みもあるので休んで調整できています。

大﨑：忙しい職場ですが、これからも頑張ってください。ありがとうございました。

田中：ありがとうございました。



※１　保健師・助産師の教育プログラムがある大学では、看護師に加えて保健師・助産師の国家試験受験資格を得ることができます。

引用：公益社団法人日本看護協会
https://www.nurse.or.jp/aim/become/index.html

管理栄養士（国家資格）

インタビュー
柴﨑　麻帆さん
聴き手
斎藤　涼太朗さん

斎藤：よろしくお願いします。早速ですがこの資格を取ろうと思った理由を教えてください。

柴﨑：よろしくお願いします。
理由の一つとして、料理が好きで食に携わる専門的な資格を取りたいと思ったことがきっかけです。

斎藤：好きなことが仕事につながるというのはとても素敵ですね。管理栄養士になるにはどうすればいいか教えていただけますでしょうか。

柴﨑：管理栄養士養成施設へ入学し栄養士資格を取得し、さらに国家試験を合格して取得できます。
管理栄養士国家試験では必須科目が10科目あり幅広く学ぶ必要があります。10科目を均等に覚えるのはかなり難しかったので得意分野（臨床栄養学や応用栄養学）に力を入れて勉強しました。

斎藤：実際に資格を取って、どのような仕事をしていますか？

柴﨑：患者さん一人ひとりの病状に合わせて再発防止や合併症予防を目指した食事指導や、入院患者さんの栄養管理を行っています。
何らかの理由で食事ができない患者さんや手術後の食事への不安など様々な問題を抱えています。
知識や技術だけでなく患者さんへ寄り添う姿勢も大切なことだと感じています。

斎藤：管理栄養士という仕事は自分や家族の食生活を見直すことにも繋がるイメージがあるのですが、実際はどうでしょうか？

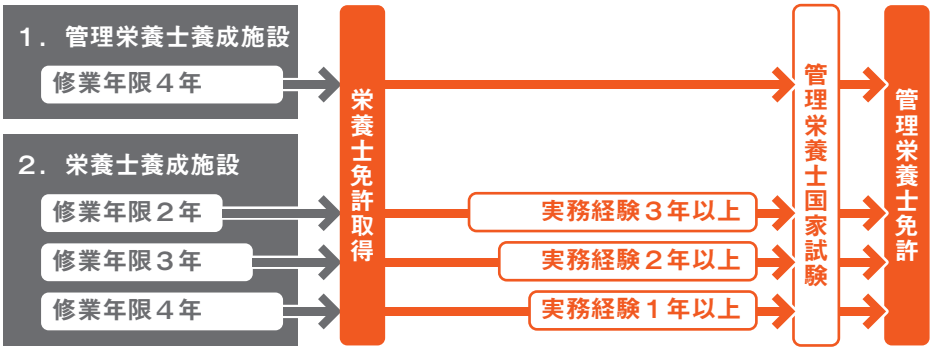
柴﨑：そうですね、繋がっていると思います。人に指導する立場として自分自身の管理も大切だと思い、普段自炊する中で栄養バランスを考えた献立を立てるように意識しています。資格を得たことにより家族や友人からも食事の相談をされることがあり、仕事場以外でも人の役に立てると思います。

斎藤：ありがとうございます。最後に、今後の目標があれば教えてください。

柴﨑：医療に携わる管理栄養士としての知識をもっと深め、日本栄養士会や各種学会の認定資格（栄養サポートチームなど）を今後取得して行きたいです。

斎藤：より知識を身につけていこうという姿勢を私も見習いたいです。
本日はありがとうございました。

柴﨑：ありがとうございました。



引用：公益社団法人日本栄養士会
https://www.dietitian.or.jp/students/dietitian/

わたしの推し

私の推しは、バイクとウイスキーです。
ツーリングに行った先で、晩酌のおつまみを買ってくる事が楽しみになっています。
いつか子供達とツーリングやウイスキーを楽しめる様に、愛される父を目指して日々奮闘中です笑

作業療法士　髙松　慎吾

バイクとウイスキー

事務　國府田　佳奈

ディズニー

わたしの推しはディズニーです。
学生時代に千葉に住んでいた事がきっかけでよく行くようになり、沢山の可愛いキャラクターに魅了され好きになりました。
特にディズニーランドの小雨の日限定パレードが大好きで、休日に友達と行く事が私の楽しみです。

地方独立行政法人 茨城県西部医療機構
茨城県西部メディカルセンター
Ibaraki Western Medical Center

〒308-0813　茨城県筑西市大塚 555 番地
TEL：0296-24-9111（代表）　FAX：0296-24-9171
予約センター：0296-24-9172（月曜～金曜　9：00～16：00）
H P：https://www.iwmo.or.jp/

■診 療 科　内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、小児外科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、救急科、麻酔科（水谷太郎）
■受付時間　初診　月曜～金曜　8：30～11：00
再診　月曜～金曜　8：00～16：30
■診療時間　9：00～17：00
■休 診 日　土曜日・日曜日・祝日・年末年始

地方独立行政法人 茨城県西部医療機構
筑西診療所
Chikusei Clinic

〒308-0847　茨城県筑西市玉戸 1658 番地
TEL：0296-28-2261（代表）
FAX：0296-28-4471
H P：https://www.iwmo.or.jp/page/dir000008.html

■診 療 科　内科
■外来診療日　月曜日～金曜日 9：00～12：00
（受付は8：30～11：00）
■訪問診療日　月曜日～金曜日 8：30～17：15
■休 診 日　土曜日・日曜日・祝日・年末年始

茨城県西部医療機構の職員（正規・非正規職員）募集中

病院ホームページをご覧いただくか、お電話にてお問い合わせください。
■問い合わせ　事務部人事課　TEL：0296-24-9111　HP：https://www.iwmo.or.jp/